

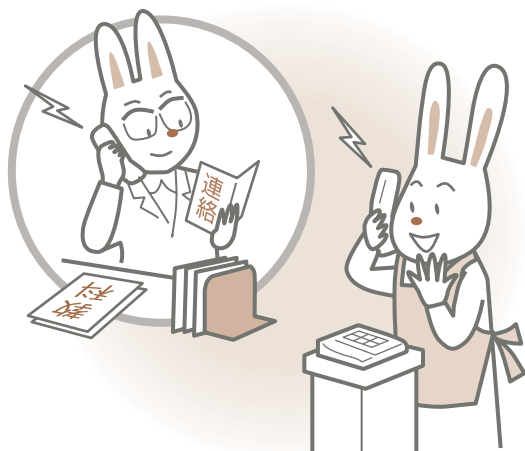
## 生活面について

**Q** 特別支援学校に通っているのですが近所に友達がいませんが、地域との交流はどのようにしていけばよいでしょうか？

**A** 地域の行事に参加することなどにより、交流の機会を増やしてみるのもよいでしょう。最近では、特別支援学校と地域の学校との個人交流を実施しているところもありますので、交流希望については学校の先生とよく相談してください。

**Q** 発語がなくコミュニケーションのとり方も分からないので、学校で本当に楽しめているのか心配です。学校での様子を知りたいのですがどのように連携をとればよいでしょうか？

**A** 幼稚園や保育所と違って、送迎の関係で小学校や特別支援学校では学校の先生と直接話しができる機会が減ることもあります。このような場合、家庭と学校の連絡帳を利用して、家庭内のことを伝えるとともに、先生から学校での様子を知らせてもらうことがよいでしょう。また、心配しすぎて教室をのぞこうとする方もいらっしゃいますが、そういう行動が余計子どもの問題行動を誘発させることもありますので、連携がとれれば安心して任された方がよいでしょう。



**Q** トイレの利用方法など社会的なマナーをどのように伝えればよいでしょうか？

**A** 外出先でトイレに行けなくて困るということは少なくありませんが、その「困る」ことが今に始まったことでないならば、場所や時間や臭いだったりいろいろな理由が子どもにはあるはずで、何が原因なのか探ることで解決の糸口が見つかるかもしれません。また、トイレ以外でも公共の場所での行動に戸惑う子どもの姿をよく見かけますが、良い経験を重ねることが最も重要なことであるように思います。ただ、それは良い経験です。いやな経験をいくら重ねてもその場面になるとフラッシュバックで蘇り、マナーなど教えることさえできなくなります。良い経験を幼い頃から積むことで社会のルールやマナーを受け入れてくれるのではないのでしょうか。

## 行動面について

**Q** 急な走り出し、落ち着きのなさ、こだわりなどに戸惑ってしまいます。どのように関わればよいでしょうか？

**A** 気持ちのままに行動してしまうことが多いですが、事前に、「手をつないで歩く」など約束をしておくことも必要です。「歩く」「止まる」というように単純明快に分かりやすく伝えましょう。こだわりについては、どこまでが許せる範囲なのかを決め、その分かりやすい手がかりを示しつつ関わるのが大切です。

**Q** 小さい子どもが持っているおもちゃなどに興味を示して取り上げて怪我をさせてしまうのではないかと心配です。注意しても注意されたことが理解できず、同じことを何度もします。どう対応すればよいでしょうか？

**A** 他人に手を出しそうになった時には、見逃さ

ずにその行為を止めてください。そしてなぜ手を出したり取り上げようとしたのかをこどもの気持ちを代弁し感情的に叱らないようにしましょう。注意されても理解できず繰り返し注意をしなければならない場合は、他人に手を出していない時により積極的に関わりを持つようにし、時には新しいアイテムを提供するなどして同一集団において他人に「手を出す」体験を減少させることも必要になります。

## 学校について

**Q** 肢体不自由児に対する学校への設備面の希望や要望は誰に伝えたらよいのでしょうか？ また、長期入院中の子どもは、欠席扱いになるのでしょうか？

**A** 肢体不自由養護学校については、設計の段階から施設・設備面でいろいろと配慮しています。しかし、小学校の肢体不自由学級ではまだまだ不十分なところがあります。設備面の要望については、園を通じて学校へ伝えていただくといでしょう。しかし、すぐに要望に応えられるとは限りません。

また、長期入院中は原則として欠席扱いになりますが、院内学級のある病院では転校手続きをとれば、転校生の児童として出席扱いになります。

**Q** 発達障害に対する理解や啓発はどのようにされているのでしょうか？

**A** 発達障害については、マスコミでも取り上げられるようになり、国民の関心があがってきています。県では、発達障害支援センターの設置による相談・支援機能の充実を図るとともに、県立教育研究所と学校教育課が連携し、講演会や冊子・リーフレット発行をし理解啓発に努めています。また、県とNPOが連携して公開講座を開催したり、PTAなどを対象とした講座を開催したりしています。

**Q** 年度途中で、特別支援学校へ転校できますか？

**A** 子どもさんの症状が急に悪化したり、事故などにより緊急を要する場合は、臨機応変に対応しています。しかし、基本的には市町村教育委員会の就学相談などで、子どもさんがどこで学ぶのがいいのか相談しましょう。

## 兄弟について

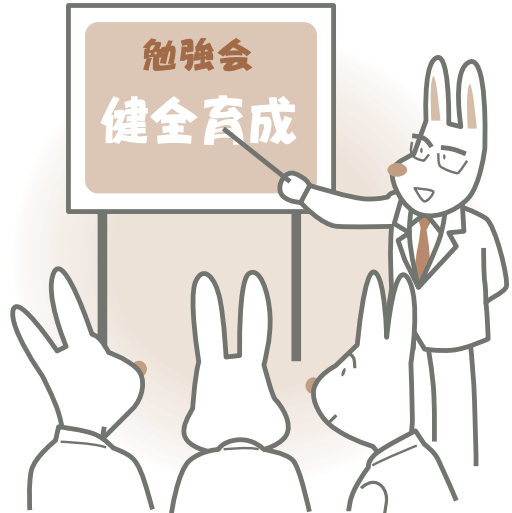
**Q** 障がいのある兄弟の理解はいつできるものなのでしょうか？ また兄弟にどのように説明すればよいのでしょうか？（兄8歳・妹4歳の場合）

**A** 兄弟との関係は難しいですね。でも兄弟だからこそ解決できるとも思います。特に男の子は黙っていることが多く、小爆発を繰り返し兄弟の障がいを認知していくのではと考えます。つまり葛藤はありますが年相当の葛藤を経て兄弟関係を築いていくようです。ただ、一般的な中傷や差別的な言動に遭遇した時には「？」だけで済ませてしまうことがあるかもしれません。その際には、親として感じたこと（例えば「ひどいこと言う人もいるもんだね。お母さんだって腹立つわよ！」でも、世の中には言っても分からない人がたくさんいるから相手にしないことも必要ね」と話してみるのもよいかもしれません。10歳前後になったら理解ができると思いますので、障がいのある妹の話はしっかりしてあげてください。妹が生まれる前の話し、妹が生まれた時の話し、障がいがあることが分かった時の話し、そしてこれからどうするかの話とお兄ちゃんの役割など（「手伝って」、「面倒みて」ではなく、妹にはどうしてあげたいか聞いてみてください）きっと分かってくれます。

## 放課後支援について

**Q** 放課後支援について詳しく聞かせてください。

**A** 県内では学童期放課後の支援をする場所として各市町村が（主に児童福祉関係）、学校の近辺に設けています。所によっては市町村や社会福祉機関が設置したり、保護者が中心となっている所もあります。障がいがある児童や支援の必要な児童が利用するには全く門戸が狭いというわけではありません。しかし児童数や支援員の体制によっては事情が違います。教育委員会との連携が進む市町村もありますのでお住まいの窓口にお尋ねください。なお、県子ども家庭局・子ども家庭課が中心となって発達障害児の理解や支援についての講座や、勉強会を行うなど積極的な動きも見られます。



### 《コラム》

#### ○特別支援教育について～特別支援教育巡回アドバイザー

友だちといっしょに明るく楽しい学校生活を送ってほしい。そして、自分の持つ力を伸ばし、将来、自分らしく生きていってほしい。——学校教育はそのための力を育てていく営みです。

障がいがある場合、障がいや子どもの状態に応じた教育の内容や方法を工夫しなければならないこともあります。それを考え、具体化していくのが特別支援教育です。

平成19年度から、学校では従来の「障害児教育」が「特別支援教育」に変わりました。この教育の対象には、LD、ADHD、高機能自閉症等も含まれています。

各学校には、特別支援教育に関する相談に応じるコーディネーターがいて、一人ひとりに合った教育方法について話しあう校内委員会が設置されています。

担任・保護者を中心に、関係するいろいろな人や機関とも連携し、子どもの成長を育む取組について考えていく、学校教育はいま、こんなふうに動き出しています。

#### ○保護者の体験から

##### ① 友達の存在はとても大きいです。

交流保育最終日、友達にみんなと違う事の説明、息子への関わり方、困っている時は助けて欲しいとお願いした事で息子の対応について先生に説明してくれた子もいました。

友達と息子の橋になれるのは母であり先生です。先生とは小まめに連絡をやりとりして一日の様子を把握して、息子に話しました。（会話が理解できにくくても伝えようという思いはわかってくれるから）たくさん話して、遊んで関係を深めました。

（特別支援学校 高等部1年生）

- ② 長男は、養護学校（訪問教育）の小学2年生です。体調を崩す事が多く、1日を元気に過ごす事で精一杯で、小学校になる事は遠い世界のように感じていました。  
自分で動くことも話すことも意思表示すら難しい子が「何を学べるだろう？」と思いましたが、気づかなかった発見が沢山ありました。表情などで、好きな事・嫌いな事がわかるようになってきました。秘められた可能性を、これからも先生方と一緒に見つけていきます。  
(特別支援学校 小学部2年生)
- ③ 大好きがいっぱい 只今中三!!  
中庭のブランコ、運動会、教室、学級係で毎日出欠表を届ける保育室。待ちきれない給食室。プールに、中学部に入って多くなった調理実習。大好きな先生に友達。書き切れない息子の大好きが一杯の養護学校。親子で安心して、思いつき楽しく学校生活を送っています。マンツーマンで先生が関わって下さり、息子の成長や日々の出来事に一緒になって大笑いしたり、喜んだり、時には悩みの相談をしたり。学校で多くの方に関わって頂き、今では見違える程、笑顔が増えました。この笑顔を見る度、心底、感謝の思いです。今年でいよいよ中学も卒業です。今は修学旅行に向けて事前学習中です。6月、元気に行つて来て欲しいと思います。これからも、1日1日を身体一杯楽しんで、充実した学校生活を送って欲しいです。  
(特別支援学校 中学部3年生)
- ④ 我が家には、発達障害を持つ小学2年生の息子がおり、現在、地域の小学校の普通学級に通っています。  
2才から療育施設に通い始め、それからは進路先を決める度に、とても悩み、迷い、療育施設の先生等にも相談した結果、地域の幼稚園・小学校を選択し、現在に至っています。  
年齢が上がるにつれ、お友達や上級生と衝突する事が増えてきたり、学習内容が難しくなってきたりしており、これから先のことを考えると、不安や悩みは尽きません。  
でも、近所を歩いていて、私たちに暖かい声をかけてくれるお母さんや同級生に会うと、息子の居場所はここにちゃんとあると思えてうれしくなり、元気が出てきます。  
これからも、いろいろな事があると思いますが、「大きくなったら、ロボットを作る人になりたい」という息子の夢を叶えられるように、親子でコツコツがんばっていきたくと思っています。  
(小学校 2年生)
- ⑤ 地域の小学2年生です。息子は心臓疾患と知的障害を持っているため、特別支援学級(病弱児学級)に在籍しています。担任の先生と連絡帳を通じて積極的に情報やお互いの意識を伝え合っています。学習面では、個別に指導をしていただいております。健康面や生活面への配慮も細やかで安心です。通常学級の友達と多少のトラブルはあるものの、毎日楽しそうに下校して来る息子を出迎えることが、一番嬉しい瞬間です。  
(小学校 2年生)
- ⑥ 娘は5歳の時から、地域の幼稚園に通っています。「おむつを替える事は、みんながトイレでおしっこやウンチをしてすっきりして気持ちよくなる事と同じなんだよ」と先生は不思議がる子供達に、このような説明をされていました。そして、当たり前のようにおむつ替えを手伝っていくようになる姿を嬉しく思っていました。よだれが出る姿も幼児期から見ているので、抵抗もないのでしょう。  
現在、娘は5年生になります。重度の脳性麻痺で移動は車椅子、言葉も話せません。休み時間は、プレイルーム(障害児学級の部屋の1つ)の広い畳の上で横になって過ごす事が多いのですが、いつも数人の男女と一緒に寝転がっています。同じ時間と空間を共有している感じです。この部屋は、クラス・学年に関係なく誰でも出入り出来るので、娘の回りはお友達の声が絶える事がありません。同世代の子供達と一緒に成長できる!!  
まさに、今が彼女の青春時代だと思います。  
(小学校 5年生)